

発掘調査速報



小山町湯船城跡ゆぶねじょうあとで見つかった江戸時代の畑の跡

- 宝永大噴火の火山灰に埋もれた畑跡
～小山町湯船城跡ゆぶねじょうあと～
- 江戸城築城石の切り出し場
～熱海市弁慶嵐石丁場遺跡べんけいあらしいしちようば～
- 寺域を区画する溝を発見か
～静岡市尾羽廃寺跡おぼねはいじあと～
- 古墳中～後期の多量の土器が出土
～菊川市中山遺跡なかやま・高橋遺跡たかはし～
- 水辺の祭祀空間 土器の一括出土
～袋井市西向遺跡にしむかい～

<短期連載> 展示室から 1・2

常設展示室では、旧石器時代から近世までを時代順に展示しています。今号では縄文時代と弥生時代のみどころを展示担当の職員が紹介します。

縄文時代

氷河期から温暖期へ
森林が育んだ縄文文化

弥生時代

稲作始まる
技術の進歩と文化の交流



長泉町細尾遺跡ほそおから出土した縄文土器と石器

Information

フェスタ埋文 2017 ～かんばらで古代体験はじまる～
考古学セミナー 後期参加者募集

ほうえい 宝永大噴火に埋もれた畑跡 ～小山町湯船城跡～

平成 28 年度発掘調査の成果

駿東郡小山町柳島に所在する、湯船城跡の発掘調査で、宝永 4 年（1707 年）、富士山の宝永大噴火で火山灰に埋もれた当時の畑跡が発見されました。

幅 20 ～ 80 センチ程度の細長い高まりが連続して確認されたことから、これを当時の畑の畝と判断しました。

宝永大噴火の火山灰（厚さ 1 m 前後）の直下から発見されたことから、大噴火の直前まで使用されていた畑であったことがわかります。

また、畑跡には、各所に地割れによる段差が確認できたため、この地割れは、宝永大噴火の 49 日前に起きた宝永大地震または、宝永大噴火に先立つ一連の地震によるものと考えられています。

すなわち、宝永大噴火直前の一連の地震により、畑に地割れの被害が発生し、宝永大噴火の火山灰により畑が埋もれ、遺棄された状況を発掘調査により明らかにすることができたとと言えます。

なお、畝上面及び、耕作土からは、炭化した植物の種子が相当量出土しています。

何の植物の種子であるか、それが当時栽培されていた作物に由来するものなのかについては、今後の自然科学分析によって明らかにしていく予定です。

宝永大噴火の様子

宝永 4 年 11 月 23 日（西暦 1707 年 12 月 16 日）午前 10 時、富士山南東斜面から噴火が発生し、噴火口に近い現在の小山町、御殿場市域では、わずか 2 週間程の短期間に最大で 3 m の火山灰が降り積もっ



写真 1 畑跡に刻まれた地割れと 1 m 程度降り積もった火山灰

たとされます。火山灰は、村々を覆い尽くすとともに、火気を含む灰は、多くの家屋や田畑を焼き、灰の重みで家屋が倒壊するという被害を及ぼしたことが、当時の記録からうかがえます。

この大噴火でできた山は、富士山の側火山として、現在、「宝永山」と呼ばれていることは皆さんもご存知かと思います。

畑跡は、当時の集落裏山の平坦面のほぼ全面で確認されており、畝の幅や方向が各所で異なる上、一部では畑を区画する溝や土堤も確認されていることから、江戸時代当時の畑作の様子を、富士山の噴火という自然災害とともに知ることができる貴重な資料であると言えます。

発掘成果と古文書との比較

宝永大噴火後、小山町・御殿場市域の村々の復興は、幕府代官・伊奈半左衛門のもと実施されることになりました。しかし、発掘調査の成果のとおり、村内の畑の一部は復

旧されることなく、「畑砂埋り」の状態で見捨てられたことがわかります。

地元に伝わる、「村絵図」には、宝永大噴火後に、幕府代官に提出するために描かれたものがあり、今回の発掘調査箇所は、「砂埋り」（「砂」は宝永大噴火の火山灰の意）と朱書きされた部分に当たることがわかりました。

「村絵図」の記載と発掘調査の成果が一致したという点において、今回の発見は、地域の歴史や災害史を考えるうえで、非常に貴重な成果であると言えるでしょう。

「もしも、富士山が噴火したら？」そんなイメージをしたことはありませんか？

今回の調査成果は、現代の私たちに自然災害の恐ろしさを改めて問いかけている気がしてなりません。

（岩本 貴）

●江戸城築城石の切り出し場 ～熱海市弁慶嵐石丁場遺跡～

弁慶嵐石丁場遺跡は JR 網代駅の西南西約 2.1km の山間部に立地します。「石丁場」は、石切場を指す言葉で、相模湾沿岸から伊豆東海岸には、江戸城の築城及び補修のための石材供給場所として、多くの石丁場が分布しています。

平成 28 年度の発掘調査では、2 点の築城石石材を確認しました。いずれも、稜線に沿って矢穴（楔で石を割る際に用いる穴）が確認でき、うち 1 点には巴文と十文字を点刻した刻印が認められます。刻印は、特定には至りませんが、遺跡周辺を持ち場とした大名に関連したものと考えられています。残存状況が良好な他の石丁場の事例と比較すると、水流や後世の攪乱によって、原位置を留めるものは少ないと判断されます。（岩本 貴）



矢穴と刻印がある築城石

●寺域を区画する溝を発見か ～静岡市尾羽廃寺跡～

尾羽廃寺跡は、静岡市清水区尾羽に所在し、庵原川が形成した扇状地上に立地します。尾羽廃寺は、白鳳時代に創建された寺院で、過去の発掘調査では、金堂や講堂の跡などが見つかっています。

平成 28 年度の発掘調査では奈良～平安時代にかけての溝や、土坑・旧流路の遺構、また、須恵器・土師器・瓦などの遺物が出土しています。溝の中からは、木簡や多量の須恵器が出土しており、発見された位置や木簡の出土から、寺域あるいは古代庵原郡に関連する施設を区画する溝であったかもしれません。その他に古墳時代の方形周溝墓と考えられる遺構・遺物や、縄文時代・中近世の遺物も出土しています。（勝又直人）



木簡の出土状況

●古墳中～後期の多量の土器が出土 ～菊川市中山遺跡・高橋遺跡～

中山遺跡・高橋遺跡は菊川市南部の高橋地区に所在し、小笠高橋川が形成する低位丘陵に挟まれた小規模な沖積平野上に立地します。

平成 28 年度の発掘調査において、高橋遺跡では弥生～古墳時代にかけての溝や掘立柱建物跡の柱穴が見つかり、自然流路（旧河道）からは古墳時代中～後期（5～6 世紀代）の多量の土器とともに、祭祀に使用したとみられる石製模造品が出土しました。また、打製石斧、磨石、敲石、砥石なども出土しており、近隣に縄文～弥生時代の遺跡があったことをうかがわせます。

中山遺跡では平安時代の灰釉陶器がまとまって出土した旧河道跡を検出しました。（中川律子）



遺跡全景

●水辺の祭祀空間 土器の一括出土 ～袋井市西向遺跡～

西向遺跡は太田川・原野谷川の自然堤防上に位置し、周辺には、元島遺跡、富里遺跡が分布します。

平成 28 年度は、計 2 面の発掘調査を行い、第 1 面では、鎌倉時代の溝状遺構、第 2 面では、古墳～奈良時代の遺構を確認しました。

注目される遺構として、古墳時代中期の井戸、独立棟持柱建物が検出され、井戸内からは高坏、小型埴などの土器が一括投棄された状態で出土しました。

これらの遺構は集落の末端に位置し、水に関わる祭祀空間が広がっていたと推測されます。（井鍋誉之）



井戸底面から検出された土器群

縄文時代

じょうもんじだい

芸術品とも呼べる縄文土器の
数々を間近で御覧ください。



時期ごとに並べられた縄文土器

案内役 展示を担当しました

ささはらちかこ
笹原千賀子 調査班長

掛川生まれ、現在函南町在住。
大学時代に、ローム層から出土する、光る石器に魅了されてこの世界に入りました。

その後、パプアニューギニアで土器作りの村々を訪ね歩く旅を重ねました。そこでは、土器の文様に宿る伝説や生きていく上での知恵を、何度も子どもたちに語る村の大人達に出会いました。

現在は、発掘によって目の前に現れた土器の物語に耳を傾ける毎日です。

これも縄文土器です！

「これも縄文土器？」多くの見学者から驚きの声が上がります。展示室1奥にずらっと並んでいるのは、草創期から晩期、縄文時代約1万年間の土器です。大きさや形はもちろんのこと、文様や意匠も全て異なり、縄の模様＝縄文土器のイメージがガラリと変わります。縄文もあれば、貝殻文もあり、山形の文様もあれば、人の顔に見えるものもあります。バラエティーに富んだ個性的な土器、これが縄文土器です。

土器は人類の重大発明

縄文土器は世界で一番古い土器のひとつです。起源は日本を含む東アジアと言われ、約1万6千年前に作られたと考えられるものが青森県で発見されています。静岡県の最古の土器は、沼津市で発見されていますが、炭化物の分析の結果14,000~15,000年前(cal B.P.)のものということがわかりました。

土器使用のメリットは数え切れませんが、「調理」と「貯蔵」という実用2大要素の他に、自由自在に形を変えることができる粘土を焼き固めることで、創造した形や文様を長時間維持させ、運搬可能にした事は大きなポイントです。

縄文時代には、同じ文様の土器を使う集団が列島内に分布します。この「同じ土器を使う集団(範囲)」を、考古

学では「文化圏」と考えていますが、この同じ文化を持つ集団が、目に見える形で互いの仲間意識を確認できるという意味で、土器の存在は大変重要だったと考えられます。婚姻の際には、出身地の土器を持参し、親交を確認しあうこともあったでしょう。

道具に見る縄文の暮らし

大小様々な形の石器は、よく見ると使われた石の種類や形、大きさなどが、旧石器時代のものとは随分と異なっているのがわかります。矢の先に付けた石^{せきぞく}（矢じり）



中期の縄文土器の装飾に見られる「顔」
(三島市押出^{おんだ}シ遺跡)

は縄文時代を代表する石器で、狩りの舞台が広々とした草原から、森林へと移り、小型の動物が対象となっていたことを示すものです。他にも石^{いしぐわ}鋸は、土木工事や植物採集が盛んに行われていた証拠、竪穴住居を作る際にも使われたことでしょう。

そしてぜひ見ていただきたいのが、美しく磨かれた装飾品です。遠隔地から運ばれたヒスイや滑石^{かつせき}を、丁寧に加工して作ったペンダントやネックレスは、着飾るためというより、持つ人の権威を象徴するものです。村の中に人々の尊敬を集めるリーダー的人物が存在したことがわかります。



左上：岩隅、その他は垂飾状石製品（長泉町桜畑上遺跡）

全ては温暖化から始まった！

土器を発明し、家を作って定住するようになり、集団を統率するリーダーが生まれる。獲物を求めて少人数で遊動生活を送っていた旧石器時代人とは大きく異なる縄文時代人の姿です。なぜ、こんなにも劇的に変化したのでしょうか？

その謎は、約1万5千年前にあります。氷河が一気にとけて一時的に寒冷化した日本列島は、これ以降徐々に温暖化します。北海道と大陸の間に海峡が生まれ、日本海が誕生すると海流が生じ、上昇気流によって降雨量が増えます。寒く乾燥した気候から、一転暖かく湿潤な気候となったのです。これによって、生産性の高いコナラやクヌギなどの落葉広葉樹、シイなどの常緑広葉樹の森が誕生することで植物食への依存が高まり、安定した定住生活を送ることができるようになったのです。また、海面上昇によって生まれた遠浅の海岸部では、漁労も盛んにおこなわれ、遺跡からは、石の錘^{おもり}なども出土しています。貝塚は、水産資源を

利用していた縄文人のゴミ捨て場でもあります。

縄文時代の展示品は、気候が激変し、動・植物相が変化する日本列島で、私たち祖先が、生きていくために次々と創り出した道具の展示です。これらの道具はただ単に生産道具としての機能性のみを備えているわけではありません。過剰なまでの装飾を施した土器や、美しく丁寧に磨かれた石器、小さな壊れた土偶を

ぜひ直接御覧になり、縄文人の豊かな生活と心に触れてください。



ヒスイ^{たいしゆ}製大珠^{するがやま}（島田市駿河山遺跡）



コナラ



クヌギ

食用になり、保存性もある。木は根元を残して伐採することで、比較的短時間に再生するため、建築材等に利用しても、数年後には実を収穫できるようになる。

中期の土器と石器

木製品の壁面展示の後ろにある立面ケースには、静岡・清水平野の弥生時代水田跡の周辺にあった集落や墓から出土した中期の遺物を展示しています。

弥生土器は、主に壺・甕・高坏の3器種に分類されます。中期の土器は、壺の頸部は細長く、器面にはヘラや櫛で文様を施しています。地文に縄文を施したのも見られます。甕は底が平たく、口が大きく開き、口唇部に指で細かい刻み状の装飾を施しています。

高坏は粘土ではなく、木でつくられたものがあります。

当時、木を加工するための道具は刃先を石で作った斧でした。木を切り倒すときは太型蛤刃石斧を使い、柱状片刃石斧は木を削り抜く作業、さらに扁平片刃石斧では、割り出した板を平らな面にしました。石斧は安倍川にある石でつくられており、案外身近なところにある石材を使っていたこともわかっています。

石斧から鉄斧へ

展示室2の入口を入ってすぐのところにあるのぞきケースには、金属製品を展示しています。

弥生時代後期になると、静岡県でも金属製品が普及して、石斧は鉄斧へと変わりました。

よく見ると鉄の刃先は扁平片刃石斧の形に似ています。同じように鎌の刃先も鉄刃へと変化します。鉄の道具を使うことによって、作業効率は飛躍的に高くなり、細かい部分も加工できるようになりました。

武器と装身具

弥生時代の武器は狩猟や戦争で用いらただけでなく、まつりの道具



左上：太型蛤刃石斧 右上：扁平片刃石斧 下：柱状片刃石斧
(静岡市川合遺跡)

としても使われました。また、武器や装身具は当時の社会集団の中に有力者がいたことを示す遺物でもあります。

静岡県では、国内の広い地域で出土している細長い鉄剣、円孔のない銅鏃、分布の中心が東海地方にある円孔のある銅鏃と、東日本にある幅広の鉄剣、带状銅鋼〔腕輪〕・銅環〔指輪〕が混在して出土しています。幅広の鉄剣は鹿角製の把を装着して使用しました。この把も東日本で多く出土するものです。

弥生時代の静岡県は、東日本の文化と西日本の文化が交錯する地域だったのです。

後期の土器

展示室2左側奥にある立面ケースには、後期の土器を展示しています。

後期の土器は、壺の頸部が中期のものに比べて短くなり、胴部が下膨れになります。甕は底に台が付いたものが主体となります。同じ静岡県内で出土した土器でも、東部と西部では、一見似ていますが、形や文様の構成などに違いが見られます。高坏は県西部で多く出土する一方、東部ではあまり出土していません。

また、底に穴をあけた壺は墓に供えていたものです。当時の人々はわざと穴をあけることで、日常生活で使う土器と区別していたのです。

案内役 展示を担当しました

いわさき 岩崎しのぶ 調査班主査

小学生の時に考古学を知り、以来大学で考古学を学び、自分で遺跡の発掘調査をすることを目指し、現在に至っています。

今回の展示では主に土器と、まつりに係る金属製品を担当しました。時期や地域による遺物の形態の違いを見つけ、弥生時代の遺物ならではの造形美を感じ取っていただけるような展示を心がけました。

銅鐸

展示室2中央では、西の谷遺跡(磐田市)出土銅鐸のレプリカ(現品は県指定文化財)を展示しています。

銅鐸は弥生時代における日本特有の青銅器で、中空の内部に棒状の部品「舌」を吊るして音を出すベルとしてまつりで使用されました。

西の谷遺跡は、明治23年に銅鐸2点が出土したことから、電磁法探査及び金属探知機による確認調査を行ったところ、地中に銅鐸が存在することが判明しました。その結果を受けて、発掘調査が実施され、集落から離れた谷斜面に、鑿を上下にし、横倒した状態で埋納されたことがわかる貴重な調査例となりました。



銅鐸(レプリカ)の展示(磐田市西の谷遺跡)

まいぶん
フェスタ埋文 2017 ～かんばらで古代体験はじまる～

毎年恒例の、県民の日協賛事業の「フェスタ埋文」を、新天地「蒲原」で開催します。

場所：静岡県埋蔵文化財センター

8月18日（金） 午前の部 9:30～12:00 午後の部 13:00～15:30

参加無料、申込不要（ただし、火おこし体験・まが玉づくりは整理券を配布します。）

- 火おこし体験（雨天中止※）
- まが玉づくり
- 古代服を着よう
- 弓矢体験（雨天中止※）
- 静岡のおたから、大発見！（カルタ・すごろく）
- **New!** センター探検隊（クイズラリー）

※雨天の場合は織物体験を実施します。

移転した新しい埋蔵文化財センターで初の開催です。新たなメニューも用意しました。

よりパワーアップしたフェスタ埋文にご期待ください。

当日は JR 新蒲原駅からセンターまでの臨時バスを運行します。

運賃 大人 190 円 小人 100 円

運行時刻 新蒲原駅発： 9:00 10:00 12:00

センター発：12:30 14:30 15:45

昨年開催

「フェスタ埋文 2016～古代へGO!～」の様子です。



火おこし体験



まが玉づくり

考古学セミナー 後期参加者募集

場所：静岡県埋蔵文化財センター

後期テーマ 『イホハラの考古学』

9月21日（木）、10月21日（土） 14:00～15:30

参加無料・要申込（7月20日より受付開始）

「庵原」の歴史についてわかりやすく解説します。

セミナーに合わせた展示も企画しています。

当日は JR 新蒲原駅からセンターまでの臨時バスを運行します。

運賃 大人 190 円 小人 100 円

運行時刻 新蒲原駅発：13:00 センター発：16:15

専門家による身近な
考古学講座!!



考古学セミナー（前期）の様子

静岡県埋蔵文化財センター

Shizuoka Prefectural Archaeological Center

〒421-3203 静岡県静岡市清水区蒲原 5300-5

TEL：054-385-5500 FAX：054-385-5506

URL：http://www.smaibun.jp/

静岡県埋蔵

検索

〈アクセス〉

◆JR「新蒲原」駅より徒歩で約30分

◆車…国道1号線 蒲原東ICより約3分

東名高速道路 富士川スマートICより約15分

駐車場無料

